

護國神社

護國神社は、19 世紀半ばから第二次世界大戦終戦にかけて、国のために命を落とした人々の魂を崇敬する神社である。この神社は、明治天皇（1852-1912 年）の命により 1904 年に創建され、現在、5 万 6 千人を超える宮城県出身の人々の御霊を追悼している。

死者への追悼

日本は数世紀にわたり続いていた内乱の世を経て、徳川幕府（1603-1867 年）のもと、2 世紀に及ぶ平安と繁栄を享受した。しかし、19 世紀後半になると、外国からの侵略に対する恐れから反幕府の気運が高まった。その後に起こった社会的、政治的な動乱の中で幕府派と反幕府派が衝突し、双方で人命が失われた。その結果として明治維新（1868 年）が起こり、幕府は解体され、王政復古が成し遂げられた。この政治革命によって日本は急激に近代化し、その後、海外での国際紛争に介入し、第二次世界大戦に至る。

神社の境内

護國神社の中心となるのが、本殿と拝殿である。本殿は一般に公開されていないが、拝殿の前で祈りを捧げる事ができる。拝殿の幅が広く湾曲した銅板葺屋根は緑青で覆われており、朱色に塗られた建物の木組みとコントラストを描いている。破風は、彫刻や、装飾が施された金属細工で飾られており、入り口上部には「しめ縄（聖域を示す特別なロープ）」が張られている。春になると、境内には

薄紅の桜の花が咲き誇る。

歴史の展示

境内には神社の主要な建物の他に加え、明治維新から第二次世界大戦までの日本の歴史を神代順に紹介する展示館がある。展示には、歴史的な出来事や若い兵士の姿をとらえた古いモノクロ写真や、世界最大の戦艦である「戦艦大和」の 1/100 スケールモデルなどといった関連品がある。この展示館へは少額の入館料がかかるが、英語の解説文も設置されている。